

第 53 回
東北社会学会大会プログラム

第一日目：2006年7月29日（土）

第二日目：2006年7月30日（日）

29日（土）	9:00－	受付	1F エントランスホール
	9:50－	開会の辞	201
	10:00－12:00	自由報告Ⅰ	205, 206, 207
	12:00－12:45	理事会	204
	13:00－17:00	課題報告	201
	17:10－17:50	学会総会	201
	18:00－20:00	懇親会	学生ホール棟食堂
30日（日）	10:00－12:00	自由報告Ⅱ	205, 206, 207
	13:00－15:00	自由報告Ⅲ	205, 206, 207
	15:10－	閉会の辞	201

会員控え室：202

大会事務局：203

大会参加費 一般・院生・学生ほか：1000円

懇親会会費 一般：5000円

院生・学生：4000円

主催 東北社会学会

担当校 岩手県立大学

会場 岩手県立大学共通講義棟

第一日目

開会の辞 9:50- 会長 海野道郎

自由報告 I 10:00-12:00

A部会 学説 I (司会 東北大学 正村俊之) 205

- | | | |
|----------------------------------|------|------|
| 1. コミュニケーションにおけるパースンの機能 | 淑徳大学 | 佐藤麻衣 |
| 2. 初期ハーバーストにおけるドイツ・ナショナリズムの理論的克服 | 東北大学 | 泉 啓 |
| 3. M・カステル都市空間論の射程 | 東北大学 | 笹島秀晃 |

B部会 医療 (司会 東洋大学 原山 哲) 206

- | | | |
|--|-------|-------|
| 1. 異質なものの相互の共存は可能か?
——病院ボランティア組織における行為者像—— | 北海道大学 | 竹中 健 |
| 2. 患者の自己決定と「告知」の問題 | 淑徳大学 | 高柳千賀子 |
| 3. 非告知方針が生み出した「疑心暗鬼」
——菜呂 HIV 感染者の訴訟運動参加プロセスの検討—— | 東北大学 | 本郷正武 |

C部会 アメリカ社会 (司会 作新学院大学 山尾貴則) 207

- | | | |
|--|------|-------|
| 1. ライフヒストリーにおけるジェンダー／エスニシティ／ナショナリティ
——日系アメリカ人リドレス運動活動家の語りを素材として—— | 東北大学 | 土田久美子 |
| 2. 自由な著作権ライセンスとアメリカ社会 | 東北大学 | 松本洋輔 |
| 3. ダールの「ミニボピュラス」構想 | 東北大学 | 上田耕介 |

課題報告 交流の社会学／定住の社会学 13:00-17:00 201

- | | | |
|---|--------|------|
| 司会 | 岩手県立大学 | 佐藤利明 |
| コメンテーター | 岩手県立大学 | 倉原宗孝 |
| | 岩手県立大学 | 吉野英岐 |
| 1. 「芝」による「交流」と山村の再編 | 東北大学 | 中島信博 |
| 2. 定住者の知と交流の論理 | 関西学院大学 | 古川 彰 |
| 3. 動かないムラを考える
——重層化する「よそ者」とムラの「若いもの」との邂逅—— | 筑波大学 | 松村和則 |

学会総会 17:10-17:50 201

懇親会 18:00-20:00 学生ホール棟食堂

第二日目

自由報告II 10:00-12:00

D部会 学説II (司会 立正大学 前田征三) 205

1. G.H.ミードにおけるナショナリズム批判の変化について
東北大学 寺田征也
2. ノーマン・K・デンジンの解釈的相互行為論の再考
——「エビファニー」概念の検討を通して——
東北大学 新田貴之
3. E.ゴフマン「フレーム分析」の意義
——W.I.トマス、A.シュッツとの関連から——
東北大学 木村雅史

E部会 福祉 (司会 東北大学 永井 彰) 206

1. 機能分化社会における社会的援助の問題
淑徳大学 本田敏明
2. ジャカルタのカンボンの女性地域活動と階層性
——保健活動のボランティアと利用者の比較——
東北大学 齊藤綾美
3. 地域保健福祉行政の変化と対応
——岩手県における合併自治体の事例——
宮城大学 佐々木久美子

F部会 都市 (司会 東北福祉大学 星山幸男) 207

1. 子どもが育つ地域社会における NPO の役割
——仙台市を事例にして——
東北大学 中津川勇志
2. 環境 NPO と行政による協働の展開過程
東北大学 布田 剛
3. 集客消費と新しい社会関係に関する一考察
——仙台市のフィットネスクラブ・語学スクールを素材として——
宮城学院女子大学 高橋英博

自由報告Ⅲ 13:00-15:00

G部会 現代社会（司会 宮城教育大学 菅野 仁） 205

1. 若者文化から新しい「新しい社会運動」へ
——DIY が創り出す文化と社会運動との関係—— 東北大学 牛渡 亮
2. 青年意識分析の一視角としての「再帰的自己」 岩手大学 板倉有紀
3. ローカル・ガバナンスにおける
行政知とローカル・ノレッジの動態分析に向けての基本的視点
——複雑/単純の二分法を超えて—— 東北大学 伊藤嘉高

H部会 地域（司会 東北文化学園大学 佐藤直由） 206

1. 歴史的環境をめぐる専門知と民衆知の交差
——失われた近代化遺産・野蒜築港の地元学から—— 東北大学 高橋雅也
2. 近代地方都市におけるインフラ整備事業参画者の研究
——岩手県花巻地方における商業者の家経営を中心に—— 東北大学 深澤あかね
3. 岩木川下流水田地帯の環境史
——水・土地・生活に注目して—— 弘前大学 大野あい佳
4. 老農における「儉」の論理
——働儉思想の再検討—— 爽秋会岡部医院 相澤 出

I部会 意識と行動（司会 東北大学 秋永雄一） 207

1. 社会的ジレンマの経験的研究は可能か 東北大学 海野道郎
2. 協力的行動発生の要因と地域比較
——環境配慮行動への情報や社会的資源保有の効果—— 立教大学 村瀬洋一
3. ごみ問題とコミュニティ・ガバナンス
——家庭ごみの再資源化行動における「場とつながり」の効果—— 関西学院大学 長谷川計二
4. 現代日本の不平等感
——仙台市民意識調査の分析—— 東北大学 林 雄亮

閉会の辞 15:10- 岩手県立大学 佐藤利明